

# 富士山麓の冬を紅く彩るベニマシコ

ベニマシコは、漢字表記すると紅猿子と書きなされます。「紅」は赤い姿を示し、「猿子」は赤い顔をした猿に見立てたものです。そのいずれもベニマシコのオスの姿からきています。

富士山の山麓では、冬にみられ、数羽の群れが草やぶの中に落ちている小さな種子をついばんでいます。冬のバードウォッチングでは一度は見たい鳥の一つでしょう。

ベニマシコ *Uragus sibiricus*

分類：スズメ目アトリ科ベニマシコ属

全長：15cm

特徴：オスは全身が赤く、メスは明るい茶色

分布：日本、朝鮮半島、ロシア、中国、カザフスタン

日本では、夏に北海道・青森県で繁殖、冬に本州以南で越冬する。

地鳴き：フィッ、フィホ、フィー

食性：越冬地では植物の小さな種子をついばむ。



ベニマシコ オス



ベニマシコ オス



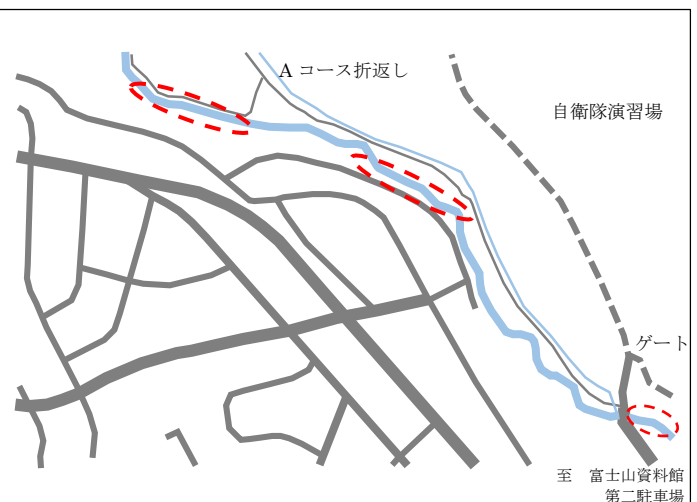
ベニマシコ メス

## いつ、どこで観察できるの？

富士山資料館周辺では12月末から3月頭まで見られます。

富士山遊歩道には枯れ沢があります。その土手には様々な種をつけた植物があります。その種を狙って集まるベニマシコを観察しましょう。

おすすめはヤマハンノキの実（小さなマツボックリ）を目印にすると良いですよ。河原に散らばった種を拾い集める姿が観察できるかもしれません。食事中は警戒心が緩んでいるのでしっかり観察できます。



富士山遊歩道周辺のマップ

ベニマシコは点線の丸の範囲で良くみられます。